

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

1) 「学位授与方針」に対応した科目群の構成の配置

学位授与方針達成のため、育成する能力に対応した以下の授業科目をそれぞれの関係性が明確になるよう配置している。基礎教養科目群は、その礎となるものとして必修科目・選択科目を配置している。

①「健康、栄養学、関連する諸科学に関する基本的知識を身につける」

健康や栄養を科学的な根拠に基づいて正しく理解するために、人を取りまく社会や環境、身体の仕組みや調節機能、疾病の成り立ち、食品及び調理の特性や栄養素の機能等、基盤となる知識を身につける科目群を置く。

②「学習した基礎知識や技術の統合・活用を通して、問題解決に向けた思考判断ができる」

実験や調査から得られたデータを適切に処理し、論理的に考察するために、これまで学習してきた基礎的知識や新たに収集した適切な情報を統合し、発展的活用を通して、問題解決に向けた思考判断する力を身につける科目群を置く。

③「管理栄養士としての倫理観や職業観を身につけ、チームの一員として活躍できる」

専門性を生かして社会貢献できる管理栄養士になるために、個人や地域集団の包括的評価から自律的な栄養管理への支援方法、特定給食施設における食事計画・生産管理を行う方法等の学習を通して、マネジメント能力を修得する。また、社会で働く上での自分の役割を踏まえ、多職種協働のチームの中で貢献できる資質を身につける科目群を置く。

④「国際的視野を持った管理栄養士として、コミュニケーションやプレゼンテーションができる」

対象者への傾聴、受容、共感を通して円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を身につける。また、事例の発表や討論を通して管理栄養士としてチームの構成員に対して自分の意見を述べ、相互理解のために必要なコミュニケーション力とプレゼンテーション力及び英語によるコミュニケーション力を身につける科目群を置く。

2) 想定した力を身につけるための授業方法

これらの力を全員が身につけられるよう、栄養学科では、カリキュラムツリーに示したとおり、基礎領域から専門領域への円滑な移行ができる学年配当で構成し、PBL やグル

ープ学習も活用して応用力を身につけさせる工夫をしている。最終的には統合的な科目を配置し、他職種連携の現場を視野に入れた教育展開をしている。

3) 成績評価方法、学習評価基準

成績評価方法・評価基準はそれぞれにシラバスに示したとおりであり、カリキュラムマップに沿って、試験、レポート、プレゼンテーション等を用い、整合性のある成績評価を行っている。また、臨地実習については、予め示した到達目標ごとの実習先評価も加味して、成績評価を行うこととしている。